

諏訪湖・天竜川プロジェクトに寄せて

2000年度の学長裁量経費により発足した「諏訪湖・天竜川プロジェクト（通称）」も今年度（2002）で通算3年が経過しました。発足当初は先行きに成算があったとは言い難いのですが、石の上にも3年の諺があるように、ようやく先行きが仄見えてきたように思われます。最初の2年間に強引とも思われても仕方のないような分析機器への先行投資も、皆様のご理解があったかどうかは分かりませんが、私なりには効果があったと自己評価しています。それは機器の使用状態にも表れており、成果報告や論文発表の基礎として役立っていることは大変嬉しいことと、森本学長にも胸を張って報告することができました。

昨年は思わぬことから文部科学省からの科学研究費が支給されることになり、2年間の学長裁量経費に続いてプロジェクトを推進する基礎固めができたことは大変幸せなことでした。プロジェクトの課題の一つである地域との連携は研究班員個々にはそれぞれの課題と地域に合わせて進められてきたことですが、プロジェクト全体としての対応が大鹿村の人たちの善意に助けられて、その第一歩を踏み出すことができたことはプロジェクトの将来性を明るくさせる材料と言えます。また、2002年度の研究報告会で各研究グループから報告された研究成果は諏訪湖・天竜川流域を一つのモデルとしてあらゆる地域に普遍化できる内容のものと感じました。これらの成果をさらに充実させて学会誌等に積極的に発表し、わが国での流域研究の進展をリードしていくことを期待しているところです。

私事になりますが、昨年は信州大学を定年退職し、幼い頃からの夢であったスイスの山々、古代エジプトの遺跡を訪ねてきました。氷河から流れ出す水を中心とした人々の生活、ナイル河の水に大きく依存した古代エジプトの人たちの文明と現代エジプトの人たちの生活、流域を一つの生態圏として自然と人との関係を知ることの意義を再確認した旅でした。その基礎研究として、諏訪湖・天竜川流域は格好の人と自然のまとまりのある研究対象地域と言えます。できれば将来は、諏訪湖・天竜川での研究経験をもとにして、ナイル河流域や黄河流域、揚子江流域といった広大な流域にまで視野を広げて、自然と人の関わりについて研究班の人たちと一緒に語り合えたら楽しいことだろうと夢見ています。

最近、すぐに役立つ研究だけが世間から要望されているというような雰囲気がありますが、基礎のしっかりしていない研究は一時のものでしかありません。このような時にこそじっくりと腰を据えた研究を長期的な視野と展望に立って進め、その大切さを世間にアピールすることこそが現在の研究者に課せられた役割と理解しています。地域の住民との連携は大切なことですが、個々の研究の充実があってこそ連携の実を結ぶことができるものと考えます。そのことを地域の人に伝えることも地域連携の大切な目的の一つです。大いに夢を膨らませ、個々の研究を発展させながら、地域との真の連携のあり方を探るのもこのプロジェクトの目的の一つと考えて、プロジェクトを楽しく、効果的に発展させていかれることを期待しています。私も研究班の班員の一人としてまだまだ心身若いつもりでおりますので、プロジェクト仲間の一人として夢見る一員に加えておいてください。

信州大学名誉教授

沖野 外輝夫

2003年3月28日